

令和4年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, サービス種類, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for Group Home Rikawa Kiyoharu.

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kanji=true&JievsvoCd=2794000758-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for the evaluation organization.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流として、例年は地域のお祭りやイベントの参加、近隣小学生の来苑、歌などのボランティアに来ていただいていたのですが、コロナ禍において制約があるものの施設内で予防対策をしっかりとったうえで季節イベントや食事(こんだて)の工夫やテラスの活用など施設内であっても少しでも季節感を感じていただける取り組みに転換し、施設内で過ごしていただくうえでの安心感や役割など不安症状や帰宅願望といった認知症の周辺症状を軽減できるようなアプローチを実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホーム・デイサービス・小規模多機能型居宅介護施設などの複合介護施設の4階にあるグループホームです。コロナ禍で外出や面会が制限される中、今年度はホーム内での楽しみ事の支援に取り組みました。3食ホームで調理しており、季節感のあるイベント食を提供しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62).

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を全職員で共有することで、ご利用者様、同僚、家族や地域社会の幸福を意識して行動するよう朝礼での唱和、フロアへの掲示を行っている。 また別にグループホームの理念も掲げ、それを行動に反映できるよう意識付けを行っている。	法人の理念「全従業員の物心両面の幸福の追求と、福祉と教育を通じて六方笑顔を創造し、社会の成長発展に貢献する」を全職員に浸透させています。パンフレットの表紙にも明記し、周知を図っています。法人の理念を基に、「いつもある生活の支援」をホームのスローガンとして制定し、実践できるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通常なら地域のイベントや地域会議への参加をして情報交換や、近隣の小学生との交流会やボランティアサークルの方にも来てもらい交流を行うようにしていたが、コロナの影響から今年度は実質行っていない。	コロナ禍で地域交流の機会は少ないながら、小学校から寄せられた絵画を掲示したり、法人では市の定期巡回サービスを担うなど、地域に密着した取り組みをしています。BCP(事業継続計画)策定に向け、自治会長と防災についても検討する予定です。	管理者は屋市(業者による、野菜などの販売・キッチンカーの誘致など)の構想を練っています。地域に貢献し、ホームを周知してもらえるイベントの開催が実現するよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は運営推進会議を開催できず、地域住民の方や民生委員の方に事業所の情報をお伝えできていなかったが、今年度は6月より再開し隔月開催できている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度6月より再開し、入居状況、事故件数や行事の報告などを行い、会議参加の方からご意見、ご要望などをいただくように努めた。 会議記録を作成、設置し、閲覧できるようにしている。	コロナ禍で定期開催はできませんでしたが、10月より対面での開催を再開しました。同法人の小規模多機能施設と合同で、自治会長・民生委員・福祉委員会委員・社会福祉協議会職員・地域包括支援センター職員などが参加しています。今後、家族代表の参加も予定しています。 外部評価結果の報告も行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	再開した運営推進会議に参加いただいたり、Zoom会議にて中部地域福祉ネットワーク会議に参加したり、その中で地域交流室の活用方法についても断続的に相談している。	地域包括支援センター職員2名の運営推進会議への参加があり、意見を聴いています。コロナ禍で中止されていた市主催の「福祉ネットワーク会議」が1月に再開され参加しました。市とは主に電話・メールで連絡を取り合っています。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定や重要事項説明書に記載しており、入居の際にも身体拘束を行わないことの説明を行っている。 職員には年に一回を基本に適宜研修しており、身体拘束防止委員会を設置して会議を月に一回行い、全職員が周知できるよう取り組んでいる。	身体拘束廃止の指針があり、法人で月1回委員会を開催しています。研修は虐待も含め、年2回実施しています。スピーチロックなどのグレーゾーンの拘束についても折りに触れ学んでいます。現在ホームの入り口につながるエレベーターはロックしていますが、解除する時間が持たないか、検討する予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置して、月に一回開催している。 年に一回を基本に適宜施設全体研修も行うことで、徹底周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居相談の際には、必要に応じて説明を行うようにしている。 また年に一回、施設全体研修も行うことで、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、書面を提示しながら説明を行い、伝わりにくい点やご不明な点などあれば、繰り返し説明を行うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設エントランスに「意見箱」を設置しての聞き取りや、郵便物に「意見書」を同封して返信いただいたりなど、ご意見や苦情などを施設全体でも共有し報告書を作成することで改善するよう努めており、苦情委員会も設置している。	コロナ禍で運営推進会議の家族参加は見合わせていましたが、来年度は参加をお願いする予定です。請求書に「ご意見シート」を同封し、意見・要望を聴取するための工夫をしています。2回実施し、面会再開に繋がりました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適時、個別職員面談を実施、また月に一回のフロアカンファレンスを行い、意見や提案を言いやすい環境作りに努めている。	月1回、ユニットごとにカンファレンスを実施しています。法人では多種の委員会があり、専門的な意見や提案を聞いています。管理者・リーダーとは意見が出しやすい関係ができており、様々な提案に迅速に対応しています。職員の意見から勤務形態を改善した事例があります。管理者との個人面談を行っています。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状況や資格取得サポートを導入して、評価を行っている。 また個別に毎年目標を設定し成長していける環境作りに努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に法人の新人研修に参加、また外部研修参加や資格取得のための補助金制度など知識の習得を目指す機会や支援を行っている。 またリーダー職に対してはリーダー研修も別途実施し「教える側になれる」研修も実施している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会、サービス部会や地域ネットワーク会議の参加を通じて交流を図っている。 また定期的に情報交換会を行ったり、こまめに情報交換を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランやサービス内容に意向を反映できるよう、本人やご家族の困りごとや要望に耳を傾けるよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場になってお話を聞き、困っていることやご要望などに一つひとつ対応することで関係性を構築していく。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族がそれぞれの立場で必要とされているサービスについて提案を行なう。 また医師、看護師などの専門職からご意見をいただき対応するようにしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者、ご家族に対しての接遇マナーを基本としてコミュニケーションを行なうよう指導、研修をしている。		

己	部	外	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時や問題が起こった際の連絡以外にも日頃の様子などをお伝えしたり、写真入りの家族通信も送付させていただいている。 またご家族からの要望を伺いサポートするよう努めている。		
20	(8)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力をいただきながら、外出や外泊支援をしていたが、今年度はコロナの影響でお控えいただいている。 可能な限り今まで通院していた病院や理髪店など馴染みのある施設が利用できるよう援助している。	中止していた家族との面会を3月に再開しました。現在は月1回、事前予約で15分、玄関のブース内で面会しています。「ふれあい通信」は月1回、居室担当者が一人ひとりの様子に写真を添えて送り、家族に喜ばれています。馴染みの歯医者への通院や、遠方の親戚の訪問時はドライブに連れ出してもらうなど、柔軟な対応で支援しています。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、会話や共通の趣味活動、クラブ活動(書道、フラワーアレンジメント)などを通じて関りが深めていけるよう職員が仲立ちをしていく。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してご利用者から相談があれば、誠意をもって対応を行なうよう支援支援している。		

**Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント**

23	(9)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人意向の聞き取りが困難な場合は、ご家族などの関係者から情報収集を行うよう努め、その際には日々の言動や表情から思いが読み取れるように記録を細かくとれる工夫を行っている。	生活歴や家族からの情報も得て、思いや意向の把握に努めています。日々の会話などからの気づきは、カンファレンスや口頭で伝えて共有を図っています。生活歴で工場長の職にあった利用者には、名前ではなく工場長と呼びかけることで会話がスムーズになった事例があります。	ケアマネジャーはコロナ禍で家族とのつながりが薄くなり、本人や家族の思いや意向の把握が難しかったと感じています。これから家族と信頼関係を築き、しっかり意向を聴きたいとの思いがあります。取り組みに期待します。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の理解を深めるために、以前の生活の様子などを介護計画作成に反映できるよう努めている。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の生活記録を活用して、その方の状況把握ができるよう努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の個別記録を基にサービス内容を把握して現状に即した介護を行っている。 また居室担当制を導入しており、随時モニタリングも実施している。	介護計画は基本6か月に1回見直しをしています。アセスメントを取り、ケアカンファレンスなどで全職員が課題を挙げられるようにしています。時に医師や後見人、看護師などの意見も反映し、家族に電話で説明、同意を得ています。居室担当者が今月の総括としてモニタリングを行い、新たな計画につなげています。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録やユニット日誌を記入することで、情報の共有化を行っている。 またカンファレンスを行い、話し合った内容をケアに反映できるよう努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況や心境の変化において、想定していなかったことへの対応は、出来る限り応じるように努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の生活歴、利用していた施設や店など馴染みの関係を大切に、本人やご家族の希望をお聞きして、その都度対応を行っている。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時にあらかじめ要望などをお聞きし、希望される医療機関に協力いただいています。 緊急時などの有事や、相談があれば24時間連絡できるよう体制作りを行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医に通院することができます。現在は1名、家族の介助で通院しています。定期受診は月2回法人クリニックの医師が往診し、看護師は週2回訪問して健康管理を行っています。夜間や緊急時は管理者が対応し、24時間対応の医療連携を築くことで、家族の安心も得られています。週1回の訪問歯科は口腔ケアを行い、必要に応じて随時、治療も行っていきます。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が健康管理チェックを行い、かかりつけ医との医療連携を行っている。定期訪問が週2回、緊急時など24時間連絡がとれる連携体制をとっている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行った際、医療機関やご家族から経過や状態について情報をいただき、施設で対応できることなどをお伝えし、よりスムーズな退院支援ができるよう努めている。 日程を調整してカンファレンスに参加させていただけよう努めている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご要望をお聞きし、本氏の状態や状況が変わった時には、その都度意思確認をして、具体的にどのようにすすめていくかを多職種で連携を行い取り組んでいる。	看取りケアにおける指針・同意書を作成し、本人・家族と話し合っています。状態変化や終末期の対応は、家族・医師・看護師・職員等と再度話し合い、より良い最期を迎えられるように支援しています。家族面会はゆっくり過ごせるように配慮し、職員は利用者のウエルメモリー(アルバム)を心を込めて作成しています。看取りを経験した職員には法人でストレスチェックやカウンセリングを行い、更なるステップアップに繋がる看取り研修も実施しています。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間・緊急対応マニュアルを作成し、職員がいつでも確認できるよう設置している。また活用できるよう定期的に研修を行っている。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施して、避難できる方法や経路などを職員には周知しているものの、地域との協力体制は不十分ではある。 厨房や倉庫に数日分の水、食料や介護用品などを備蓄し備えている。	年4回の防災訓練を実施し、災害対策マニュアルや緊急連絡網を作成しています。特にホーム地形を鑑み、洪水対策を実施し浸水時の対応にも備えています。訓練後はチェックリストで振り返りを行い情報の共有を図っています。備蓄品は3階倉庫に3日分の飲料水と食料品等を保管し、厨房の管理栄養士が管理しています。	

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている			個人情報の取り扱いや接遇マナーについて、研修を実施している。	入職時、個人情報の取り扱いや接遇マナー等は、法人のカリキュラムに沿って研修を行っています。ホームではeラーニング(オンライン研修)による自主研修に励んでいます。不適切な対応があった場合は管理者は状況確認とヒアリングを行い、職員間ではリーダーを中心に注意喚起を促すことができる職場環境にあります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			自身の思いが伝えやすいような関係作りや環境作りを心掛け、その都度聞き取りを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している			本人のペースや状態に合わせてお過ごしただけよう生活記録から読み取り、ケア内容の見直しを行い支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			ご自身でお選びいただけるような声掛け・支援に努めている。 ご希望があれば訪問理美容などの外部サービスを案内したり、物品購入の相談援助や対応を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			お好みをお聞きしたり、季節感を出すため行事などにあわせたメニューに反映させたり、一緒に準備、盛り付けや片付けなど、できること、やりたいことを提案しながら行っている。	3食、職員が手作りの食事を提供しています。管理者は利用者の嗜好や季節感に配慮して献立を作成しています。季節イベント(おせち料理、恵方巻、おひな祭り弁当等)や月1回のカレーライスの日等、食べる楽しさを提供しています。餅つき善哉の餅は材料を工夫して、喉詰めのないよう配慮しています。利用者は調理の準備や盛り付け、片付け等を手伝うことで生活の自信に繋がっています。		



己 自部 外	項 目	自己評価	
		実践状況	外部評価
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的なメニューを中心に、魚や肉料理を主菜にこんだてを考えている。 食事量や水分量を個別に記録して体調管理に努めている。	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本氏の能力にあわせて援助を行っている。 必要に応じて、口腔状態を訪問歯科に診ていただくようご案内している。	
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を個別記録し、排泄用品や支援方法の検討を随時行い、できるだけトイレにて排泄できるよう話し合い、考察を行っている。	排泄チェック表を活用し、タイミングを見計らった声かけを行い、トイレでの自然な排泄を支援しています。夜間等はベッドに設置したセンサー「眠リスクキャン」を活用し、体動や睡眠状態の把握をして、不安や不快感のない対応を心がけています。
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を個別記録して、主治医に相談を行っている。施設看護師とも連携し、日々の調整も行っている。 また食事や水分についても種類や効果などを検討している。	
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めずに声掛けを行い、本人の希望にあわせた提供時間、入浴介助を行っている。	入浴は週2回以上、曜日や時間を決めず対応しています。浴室は一般浴とリフト浴があります。その都度、湯を張り替え、量や温度も希望に添えるようにし、リフト浴も安心・安全に留意しています。好みの入浴剤を使ったり、ゆず湯等で季節の入浴を楽しんでいます。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して入眠できるよう声掛けや要望に対応している。 またIT化にともない「眠リスクキャン」を導入することで、眠りを阻害することなく安否確認やトイレ声掛けができるようになっている。	
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認して、追加処方や中止した場合など体調変化がないか記録しモニタリングに努めている。 管理や服薬方法などの指導を、薬剤師の方に協力いただいている。	

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48				○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材盛り付け、食器洗い、トレー拭き、洗濯物たたみなどの生活要素や歌唱や体操などのレク要素など、本人の関心や能力に応じた役割や楽しみを支援できるように取り組んでいる。			
49	(18)			○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年ならご家族の協力をいただきながら買い物や外食など個別の外出支援を行っていたが、今年度はコロナの影響で最小限に控えていただいている。	コロナ禍で外出が制限される中、外気に触れる機会を増やすようにしています。広い屋上で草花や野菜を育てたり、ベンチでの外気浴で気分転換を図っています。淀川や伊丹の花火大会の日は屋上で花火を観賞し、ソーダ水を飲み楽しい夏のひと時を過ごしました。天気の良い日は車椅子での散歩に出かけます。近隣の神社への初詣で新年を迎え、季節に応じた花見散歩も計画しています。		
50				○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のご希望やご家族の同意を得るようにして個人管理されている。金銭管理が困難な方は、ご家族に管理いただいている。			
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご要望があれば、対応や取り次ぎを行っている。また手紙やはがきのやり取りもできるよう支援している。			
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	主な共用場所であるリビングには、テレビ、大型加湿器やソファなど快適で落ち着けるような環境作りに努めている。	リビング兼食堂は清潔でゆったりした生活環境になっています。食堂には2台のソファを設置し、数人で、また独りで、思い思いに過ごせる居場所になっています。家具やテーブル等は安全で動きやすい動線を考慮し、配置に工夫しています。※感染予防のためホーム内は聞き取りと映像視察		
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫して、利用者様が各々過ごしやすような空間の提供に努めている。			

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		できるだけ入居前の生活環境に近づけることのできるよう馴染みがあり使い慣れた家具や物品などを持参されるようお話ししている。	家族の協力で、慣れ親しんだ筆筒や愛着ある品々(イチローのフォトブック、趣味の作品、家族写真等)、仏壇なども持ち込み安心して寛げる部屋になっています。ベッドの高さを調整し、動線を妨げない配置を工夫しています。大きさの異なる表札で自分の居室を見分けやすいように配慮しています。※感染予防のためホーム内は聞き取りと映像視察			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		居室内の環境整備としては、動線に配慮しながら家具やベッドの配置を工夫している。				